

日本アーカイブズ学会 2018 年度大会開催概要

【期日】2018 年 4 月 21 日（土）・22 日（日）

【会場】東洋大学白山キャンパス 6 号館 2 階（都営地下鉄三田線白山駅、東京メトロ南北線本駒込駅下車） ＊詳細については決まり次第お知らせします。

【参加費】会員 500 円、非会員 1,000 円

【事前申込不要】

【プログラム】 ＊タイトル、時間、会場等は変更となることがあります。

4 月 21 日（土） 受付開始 12:30

○総会 13:00～15:00 ＊会員の方のみが参加できます

○講演会 15:30～16:30

宇賀克也（東京大学大学院法学政治学研究科教授）

「意思形成過程の公文書の作成・保存と情報公開」

○懇親会 17:00～19:00（会場：2 号館 16 階スカイホール、会費：一般 5,000 円、学生 3,000 円）

○賛助会員出展 13:00～16:30

4 月 22 日（日） 受付開始 9:30

○自由論題研究発表会 10:00～12:15

【第 1 会場】

蓮沼素子

「まんがアーカイブズ利用に向けた Finding Aids に関する一考察」

青木祐一・名村優子

「民間団体アーカイブズの整理・編成・記述のこころみ：日本力行会を事例として」

清水ふさ子

「公文書から社史に描かれた企業活動を読み解く—国立公文書館収蔵の企業関連資料の調査分析を事例として—」

水島和哉

「第二次世界大戦敗戦直後における日本の民間所在資料の状況—「近世庶民史料所在調査」調査書の分析を中心に—」

【第 2 会場】

筒井弥生

「大学アーカイブズと大学美術館アーカイブズの関係を人的ネットワークから読み解く～ハーバード大学調査報告～」

齋藤歩

「アーカイブズ学に基づく建築レコード整理の実践——米国型技法を用いた京都大学での試み」

菅真城

「大学アーキビストが行う研究について考える」

柴田知彰

「市民視座による文書館の利用概念のパラダイムシフト—文書館制度の理念型に関する一試論—」

○ポスター研究発表 13:00～14:00

岡崎彩香

「レファレンスサービス向上に関する一考察—Archival Reference Knowledge モデルの紹介—」

川田恭子

「アーカイブズの資料保存における専門職連携——村井吉兵衛資料を事例として」

高田智和、関川雅彦

「言語資料に含まれる個人情報の取り扱いに関する研究—国立国語研究所研究資料室の事例を中心に—」

新嶋聡

「オーラル・ヒストリーのアーカイブズ学研究の可能性—「半自伝」オーラル・ヒストリーと自伝オーラル・ヒストリーの対比を通して—」

春木良且

「高度成長期の地域記録史料としての"政策ニュース映画"の保存と公開—川崎市政ニュースを例に—」

○企画研究会シンポジウム 14:00～17:00

・テーマ：「アーカイブズとアカウンタビリティ」

・報告1「誰が誰への説明責任を担うのか：理念・制度・実態」

川島真（東京大学）

・報告2「政府・自治体の情報公開とアカウンタビリティ：「遡及的検証」の実現のために」

古賀崇（天理大学人間学部総合教育研究センター教授）

・報告3「アカウンタビリティを支える公文書管理制度とレコードキーパー：Australasianの公記録法の視点から」

大木悠佑（学習院大学大学院アーカイブズ学専攻博士後期課程）

・ファシリテーター：平野泉（立教大学共生社会研究センター）

○賛助会員出展 10:00～15:30

【問い合わせ先】

日本アーカイブズ学会事務局

〒105-0004 東京都港区新橋 1-5-5 国際善隣会館 5階

E-mail : office@jsas.info HP : <http://www.jsas.info/>

FB : <https://www.facebook.com/jsas.info/>

Twitter : https://twitter.com/jsas_info